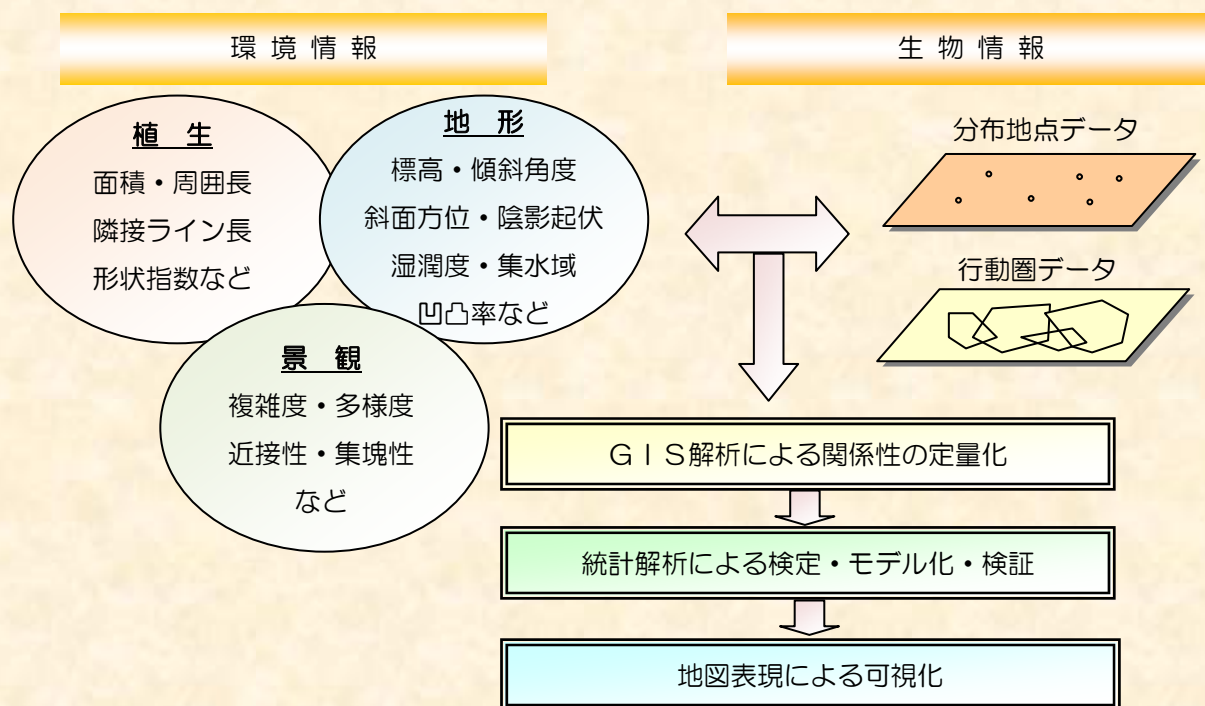


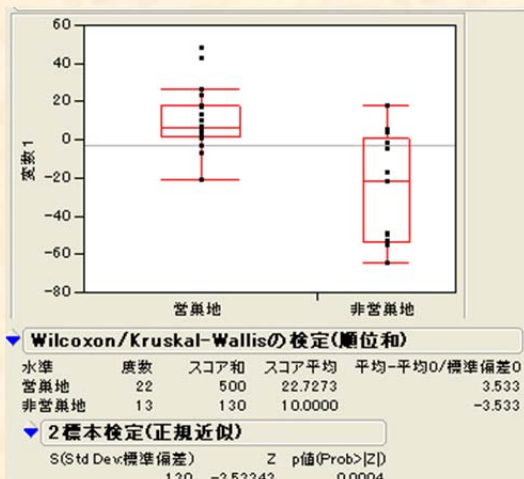
地理情報システム（GIS）と統計解析による野生生物の生育・生息環境の分析

生態系における野生生物の振る舞いは、とても複雑です。局地的な植生や地形などの条件に加え、それらの要素の空間的な配置の様態など、ランドスケープレベルの事象も影響因子として関わります。野生生物の保全策を考える際には、生育・生息に影響を与える因子の複雑な関係を読み解き、定量化して把握することが基礎的な作業となります。当社では、地理情報システム（GIS）の高度な解析技術と統計解析とを組み合わせ、猛禽類などの個別の対象種から、複数の種によって構成される種群レベルまで、ターゲットに応じて最適な分析を実施し、保全対策に必要な不可欠な情報をご提供します。

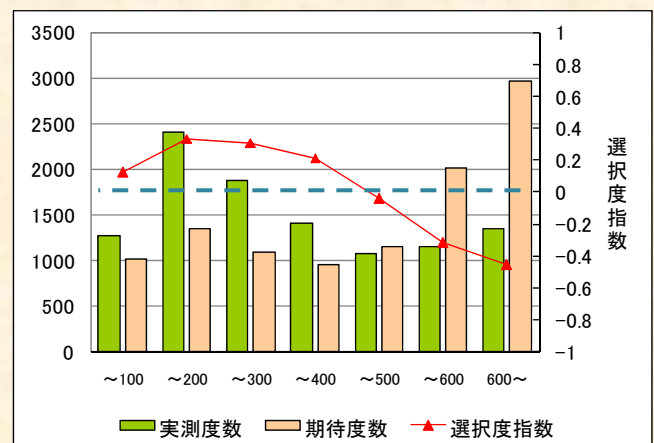


分析手法の例（目的に応じた手法の組み合わせで最適な成果を導き出します）

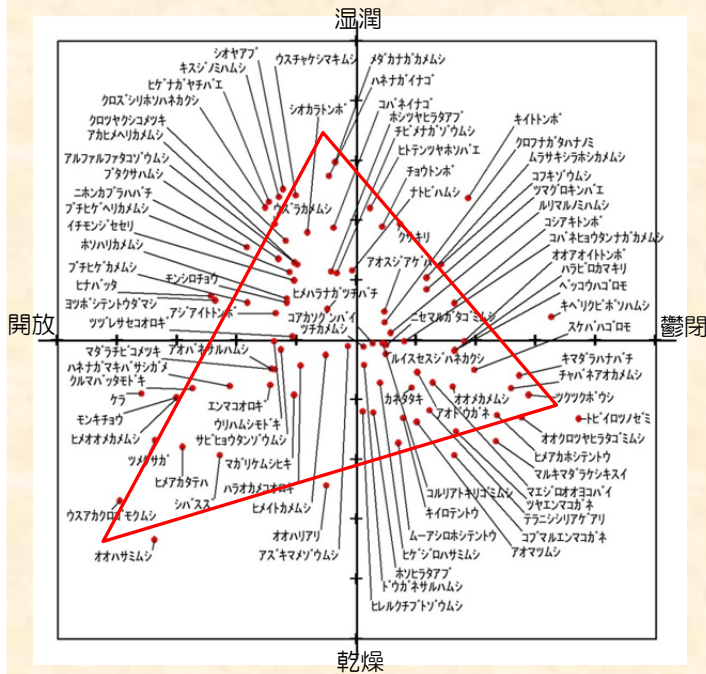
■生息地と非生息地との統計的検定による生息条件の解明



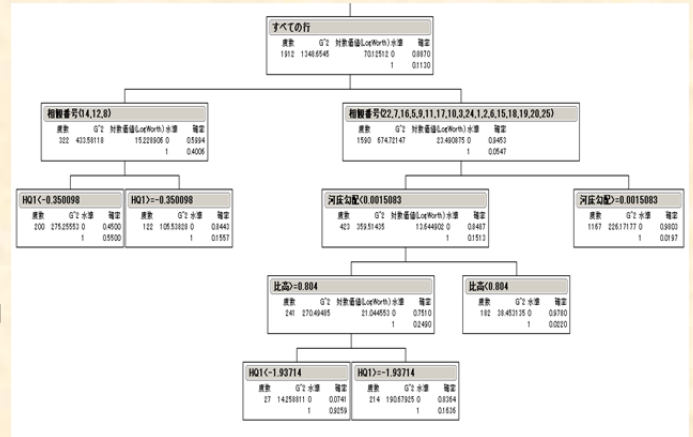
■選択度指数による環境選好性の解明



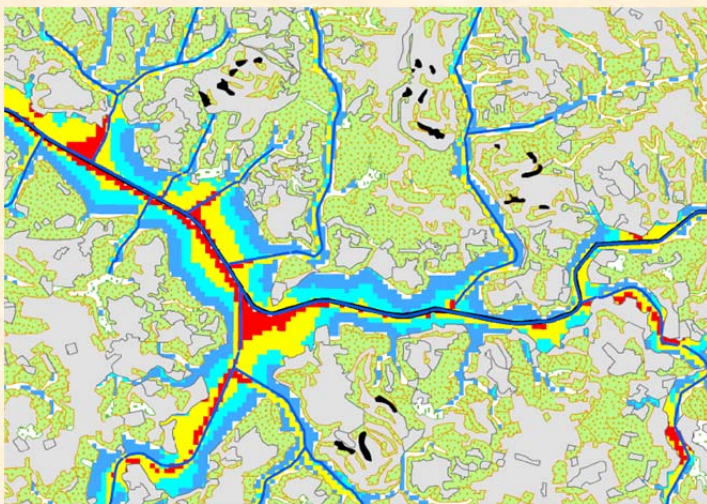
■正準対応分析 (CCA) による環境構造の2軸上での種のプロットと、類似した環境に生息する種群の抽出



■二進木解析による生息環境条件の絞り込み

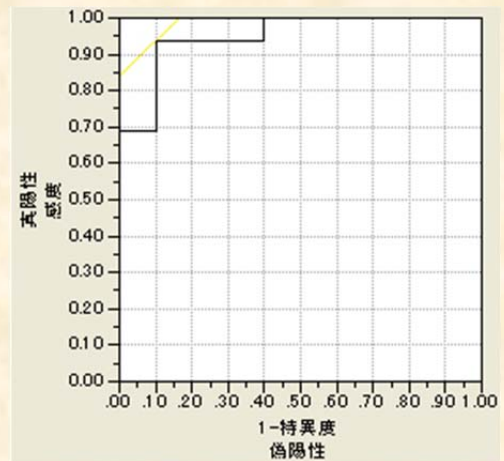


■生息予測モデルの広域的適用による潜在的な生息適地 (ハビタット・ポテンシャル) の地図化



■生息予測モデルの作成とROC分析によるモデルの精度検証

$$\text{Log}(p/(1-p)) = 2.35 + 5.376 \times \text{常緑広葉樹林の面積率} + 2.387 \times \text{樹林と水田との隣接線長} + 1.032 \times \text{土地利用の多様度}$$



◆【お問合せ先】◆

株式会社 緑生研究所
〒182-0026 東京都調布市小島町2-40-10 桐生ビル2F
TEL : 042-499-7211, FAX : 042-487-4334, E-mail rs@ryokusei-ri.co.jp
営業担当 麻生